

2022年度

S 3

小 論 文

2月25日(金)

人文社会科学部 (言語文化学科)

10:30~11:30

【前期日程】

注 意 事 項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(1枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、1ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙(1枚(表裏))を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については、下記の点に留意すること。

- ・書き出しは一マスあける。
- ・改行したら一マスあける。
- ・句読点はそれぞれ一マスとする。
- ・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」は一マスで使う。

- 6 問題は、声を出して読んではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 8 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

次の文章は、毎回一つのことばを取り上げ、コメントを付けていくコラム「折々のことば」に掲載されたものである。これを読み、あとの設問に答えなさい。(配点 100%)

多様性って、やっぱ覚悟ありますよ。

上田假奈代

大阪・釜ヶ崎で「こえとことばとこころの部屋」を主宰する詩人は、多様性は「自分にとって居心地のいい人だけと一緒にいること」とは違うと言う。むしろ「招かざるお客さん」とどう「出会い直して」いくかが問題だと。であれば、時にその筆頭が自分であることも？ 認めたくない自分が自身の奥に居座る。『TURN NOTE TURNをめぐる言葉2020』から。

(鷲田清一「折々のことば」『朝日新聞』2021年7月13日朝刊)

問 この文章の趣旨を踏まえ、多様性についてあなたの考えを述べなさい。(600字以内)